柿食うこと

オーシャン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
柿食うこと

【Ｎコード】
Ｎ３１８９Ｅ

【作者名】
オーシャン

【あらすじ】
柿食うこと（笑）これじゃあ３０字に足りないので付け加えると、この小品を書くに当たっての自分そのもの、ちょっとした自嘲です。

柿の一ツだけなのを熟っと観ている。
全体が微醺を帯びたように染め上がって若やいで観える。白磁の大皿に落ちた影は小さく、またかつ、ほくろのようだ。その当たり前なのをどう描こうかで迷っている。手元で控えた小皿に点滴された水も、埃が落ちた他は醇乎(じゅんこ)なままでいる。
不図した拍子に、やせ脛を床机の肢(あし)の角でしたたかに打った。悶々とこいまろんでいるうちに、柿が無傷でゴロンとこちらまでーー、向いた顔の生酔ひ（なまえい）なのに、にわかに亢じていきおい引っ掴むと、果肉が毀れ汁が滲み出て来て、指の縁(へり)を伝い、付け根で玉になったのを認めた。追いかけるように舌先を小さく痙攣させながら近付けた。瑞瑞しく湛えられた接線にもうすぐで触れるという時、ほとんど繊維の筋がおぼろになった果肉の皮が、爪先にやっとでいるのに気付いた。摘み糊の残った面を指頭に捺した。目に星が散るように閃いた。
粗目の水彩紙を湿らせ、パレットに作っておいた金赤を筆で刷いて潰し、事前に中指大のマスキング液を点綴させていたのを剥がす。その上に親指を寝かしてやはり同じ金赤で果肉の皮を戻すように、剥がした跡の輪郭を暈しながらこすっていく。不揃いに浮かび上がるので本当らしくないが、不思議な人肌の的(あて)が出来てようやく得心がいった。
一筆加えて落款を捺した。婆さんが襖の一寸開いていた先にいて、鼈甲縁のメガネをずらし、ずっと遠くを見る目でこちらを窺っているのに気付いた。木枯らしのように出がらしの茶を運んで来た。がぶりと飲み干したのを見届けると、分からないような事を一言してすぐ立って行った。熟れた匂いが残った……いや、柿の皮の破れたところから香ってくるのだった。意外な期待をして裏切られたのだ。
「それにあいつの手と脛ときたら！圧せば戻りの遅い青白く透けた

肌に、シミと笹くればかりが目立って、その上を野分が吹いているのだ」そう考えている前(さき)で、どうしようも押さえきれない笑みが顔に泛かんでいた。口中に熟柿(じゅくし)の甘味が沁みてくる。舌なめずりをして、やにわにしゃぶりついた。渋柿だった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3189e/

柿食うこと

2010年12月2日01時13分発行